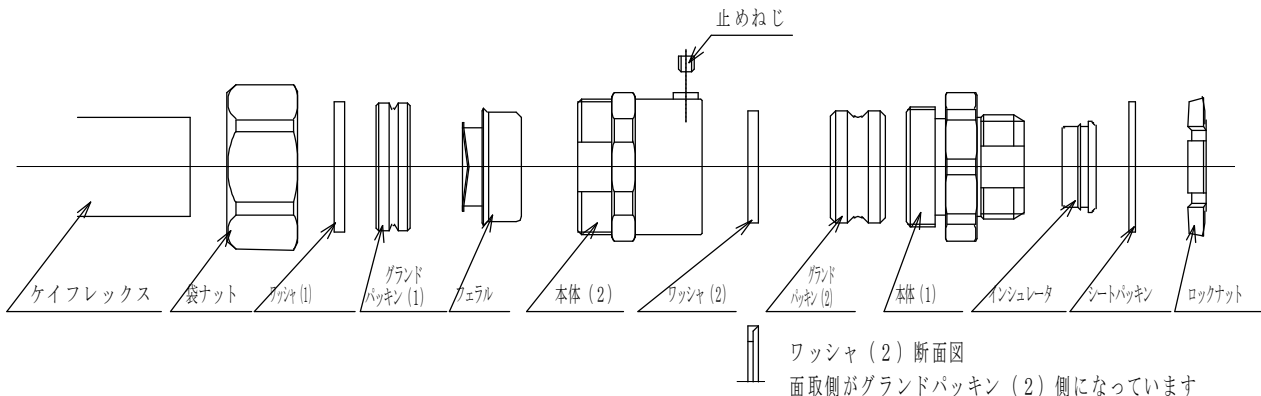


KMHBG 型コネクタの施工は、下記の要領で行って下さい。

**1. ケイフレックス附属品 KMHBG 部品構成**



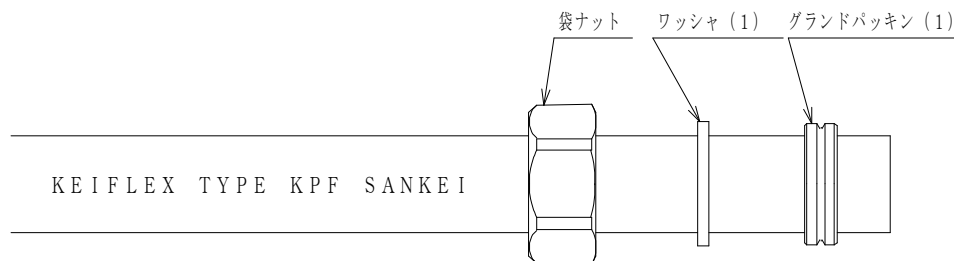
**2. ケイフレックスを必要な長さに切断します。**

- ☆切断はバンドソー、メタルソー、高速切断機を使用します。
- ☆切断は管軸にできるだけ直角に行います。
- ☆高速切断機を使用の場合は急いで切断するとビニルジャケットが熱で溶けるので、ゆっくり切断します。

**3. バリを取ります。**

- ☆ケイフレックスを切断した時、バリが出てフェラルが入りにくい場合があるので、バリを万能ばさみで取除きます。
- ☆切断時に発生した埃をハケ又はウエスで清掃します。
- ☆コアのバリを取る時、又は掃除する時コアのバリで指を傷つけないようご注意ください。

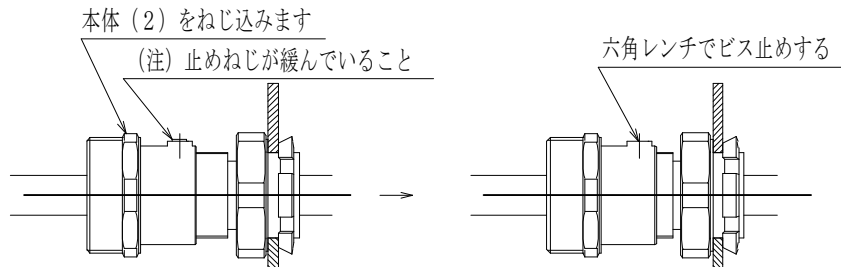
**4. ケイフレックスに袋ナット、ワッシャ (1)、グランドパッキン (1) を入れます。**





## 8. ケーブルをホールドします。

- ① 本体(2)を回して、本体(1)にモーターレンチ等でねじ込みます。この時、本体(2)止めねじは、緩んでいることを確認して下さい。
- ② 本体(2)の締め付けはモーターレンチ等を使用して、手で引っ張ってもケーブルが動かない程度まで締め付けて下さい。(参考締め付けトルクを下に示す)
- ③ 締め付け後、本体(2)の止めねじを締めて下さい。このビスは、振動などによる緩み防止用です。

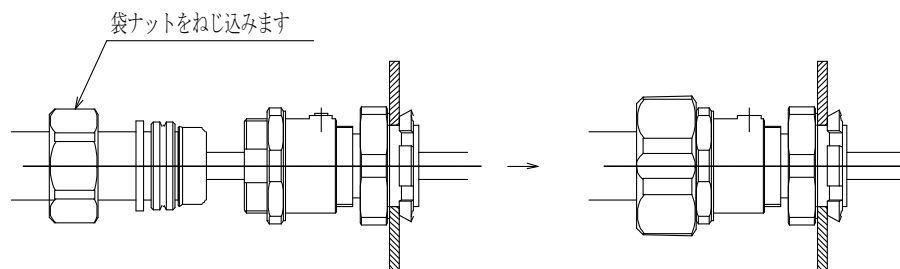


〈本体(2)参考締め付けトルク値〉

ケーブル径(mm)		締め付けトルク (N・m)
最大	最小	
12	4	8.0
16	12	12.0
24	16	14.0
40	24	18.0

※ケーブルの硬さ、芯数によって大きく異なりますので、トルク値は参考値です。ロボットケーブルのように柔軟なケーブルの場合は、×0.4程度が適切です。

## 9. ケイフレックスを接続します。



☆袋ナットと本体(2)のフランジ部がメタルタッチするまで本体(2)をモーターレンチ等で固定し、袋ナットをモーターレンチ等で確実に締め付けます。

**注意** ハーネス作業等で、コネクタをボックス等に固定する前に接続を行う場合、本体(1)をバイス等で固定して、本体(2)を締め付けて下さい。本体(2)を固定した状態で本体(1)を締め付けた場合、ケーブルが共回りしてねじれが生じ、断線する恐れがあります。最後に袋ナットを締め付け、ケイフレックスを接続して下さい。